



2018年2月14日

各 位

本店所在地 東京都千代田区麹町2丁目1番地
会社名 そーせいグループ株式会社
(コード番号4565 東証マザーズ)
代表者 代表執行役社長CEO ピーター・ベインズ
問い合わせ先 コーポレートコミュニケーション部 伴瀬晴美
電話番号 03-5210-3290 (代表)

**(再訂正)「平成29年3月期 第2四半期決算短信〔IFRS〕(連結)」
の一部訂正について**

当社は、2016年11月14日に開示し、2017年11月16日に一部訂正を開示いたしました「平成29年3月期第2四半期決算短信〔IFRS〕(連結)」の一部を訂正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 訂正の経緯及び理由

訂正の経緯及び理由につきましては、本日付「有価証券報告書及び四半期報告書等の訂正報告書提出ならびに決算短信の訂正に関するお知らせ」にて開示しておりますので、ご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正箇所は_____線を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶため、訂正箇所を含む訂正後の全文を記載しております。

以上

(訂正後)



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

平成28年11月14日

上場会社名 そーせいグループ株式会社
 コード番号 4565 URL <http://www.osei.com/>
 代表者 (役職名) 代表執行役社長 (兼取締役) CEO (氏名) ピーター・ペインズ
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役副社長CFO (氏名) 虎見 英俊
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

上場取引所 東

TEL 03-5210-3290
 配当支払開始予定日 -

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	15,839	523.4	12,223	-	13,245	-	10,027	-	10,151	-	3,241	-
28年3月期第2四半期	2,540	349.2	△753	-	△1,418	-	△1,175	-	△1,128	-	△557	-

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	601.35	598.40
28年3月期第2四半期	△80.71	△80.71

(注)平成27年2月において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、平成28年3月期第2四半期の要約四半期連結財務諸表を遡及修正しています。

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	48,005	26,763	26,756	55.7
28年3月期	47,354	23,269	23,142	48.9

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
29年3月期	-	0.00	-	-	-
29年3月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,925	242.6	17,096	-	14,901	-	13,064	-	775.07

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期2Q	16,896,184株	28年3月期	16,855,284株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	－株	28年3月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期2Q	16,880,446株	28年3月期2Q	13,979,479株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法について）

当社は、平成28年11月14日（月）にアナリスト向けにネット・カンファレンスを開催する予定です。

その模様及び説明内容（音声）については、当日使用する四半期決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 要約四半期連結財務諸表	7
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	7
(2) 要約四半期連結包括利益計算書	8
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	9
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 継続企業の前提に関する注記	12
(6) セグメント情報等	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(当期の経営成績)

① 業績の状況

当社グループは、日本に軸足を置いた国際的なバイオ企業を目指し、グローバルな研究開発活動やライセンス活動などの事業展開を推進しております。

当第2四半期連結累計期間においては、子会社であるHeptares Therapeutics Ltd. (以下「Heptares社」) が保有するパイプライン(開発品群)に関して、世界大手製薬会社Allergan plc の完全子会社であるAllergan Pharmaceuticals International Ltd. (以下「Allergan社」との提携契約等、大きな成果を得ることができました。

また、昨年Heptares社がAstraZeneca社へ導出したがん免疫療法の新薬候補の第I相臨床試験が開始され、日本国内における医薬品開発についても、当期は口腔咽頭カンジダ症治療薬の第III相臨床試験を終了するなど、研究開発を着実に進めています。

当第2四半期連結累計期間の経営成績及び分析は以下のとおりです。

連結経営成績

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比
売上収益	2,540	15,839	13,298
売上総利益	2,540	15,839	13,298
営業利益(△損失)	△753	12,223	12,976
四半期利益(△損失)	△1,175	<u>10,027</u>	<u>11,202</u>

(注)平成27年2月において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、平成28年3月期第2四半期の要約四半期連結財務諸表を遡及修正しております。

(売上収益、売上総利益)

当第2四半期連結累計期間の売上収益は、前第2四半期連結累計期間に比べ13,298百万円増加し、15,839百万円となりました。これは主にHeptares社のパイプラインを導出したことに伴う一時金及びマイルストーン収入を受領したことによるものです。

(営業損益)

当第2四半期連結累計期間の営業損益は、前第2四半期連結累計期間に比べ12,976百万円増加し、12,223百万円の利益となりました。これは主に上記の売上収益、売上総利益の増加によるものです。

(四半期損益)

当第2四半期連結累計期間の四半期損益は、前第2四半期連結累計期間に比べ11,202百万円増加し、10,027百万円の利益となりました。これは主に営業損益及び金融収益が増加したことと、法人所得税費用が発生したことによるものです。

研究開発費、販売費及び一般管理費の内訳

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比
研究開発費	1,896	1,657	△239
販売費及び一般管理費	1,440	2,069	628
(内訳) 人件費	468	815	347
委託費	283	561	277
その他	688	692	3

(注)平成27年2月において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、平成28年3月期第2四半期の要約四半期連結財務諸表を遡及修正しております。

(研究開発費、販売費及び一般管理費)

当第2四半期連結累計期間の研究開発費は、前第2四半期連結累計期間に比べ239百万円減少し、1,657百万円となりました。これは主に当第2四半期連結累計期間における円高の影響によるものです。また販売費及び一般管理費は、前第2四半期連結累計期間に比べ628百万円増加し、2,069百万円となりました。これは主に当第2四半期連結累計期間においては、Heptares社のパイプライン拡充のための費用が多く発生したことによるものです。

(金融収益)

当第2四半期連結累計期間において、1,185百万円の金融収益を計上しました。これは主に英国の連結子会社における外貨建資産を英ポンドへ評価替した際に、英ポンド安の影響を受け、為替差益1,176百万円が発生したことによるものです。

(法人所得税費用)

当第2四半期連結累計期間において、3,218百万円の法人所得税費用を計上しました。これは主にHeptares社、当社及びSosei R&D Ltd.の税引前利益に対するものです。

セグメント別の状況は以下のとおりです。

(国内医薬事業)

当第2四半期連結累計期間における国内医薬事業の売上収益は、前第2四半期連結累計期間に比べ26百万円減少し、60百万円となりました。これは前第2四半期連結累計期間に比べてノルレボ錠に関するロイヤリティが減少したことによるものです。また営業損益は前第2四半期連結累計期間に比べ165百万円減少し、405百万円の営業損失となりました。

(海外医薬事業)

当第2四半期連結累計期間における海外医薬事業の売上収益は、前第2四半期連結累計期間に比べ13,324百万円増加し、15,778百万円となりました。これは主にHeptares社のパイプラインを導出したことに伴う一時金及びマイルストーン収入を受領したことによるものです。また営業損益は前第2四半期連結累計期間に比べ13,265百万円増加し、12,736百万円の営業利益となりました。

② キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,650	12,557	10,906
投資活動によるキャッシュ・フロー	△134	△229	△94
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,555	△5,058	△3,502

(注)平成27年2月において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、平成28年3月期第2四半期の要約四半期連結財務諸表を遡及修正しております。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、Heptares社のパイプラインを導出したこと等により、12,557百万円の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が110百万円、資産計上された開発費に関連する支出が112百万円あったこと等により、229百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、条件付対価の決済に係る支出が4,105百万円、長期有利子負債の返済による支出が1,000百万円があったこと等により5,058百万円の支出となりました。

③ 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間においては、主にStaR[®]技術を有するHeptares社のパイプラインの研究開発を行いました。その結果、研究開発費は1,657百万円(前年同四半期比239百万円減少)となりました。なお国内医薬事業及び

海外医薬事業に係わる研究開発費はそれぞれ、297百万円及び1,360百万円になります。また資産計上の要件を満たす一部の開発費用については、無形資産に計上しております。

各開発品等の進捗に関するセグメント別の詳細は以下のとおりです。

(国内医薬事業)

《インライセンス》

国内医薬品事業における製品及び主要開発品の主な進捗について、子会社である株式会社そーせいは、S0-1105(適応：口腔咽頭カンジダ症)の有効性及び安全性を検証する第Ⅲ相臨床試験を終了し、当該臨床試験において所定の目的を達成いたしました。本剤の承認申請にむけ、現在準備を進めています。販売については既に富士フィルムファーマ株式会社と独占販売契約を締結しています。

《基盤技術による研究開発》

子会社である株式会社アクティブスファーマは、不純物の混入を最小限に防ぎつつ、難溶性の医薬品原料を50-200nm(ナノメートル)レベルの結晶粒子径に粉砕することが可能であるナノ粉砕化技術(APNT: Activus Pure Nanoparticle Technology)を活用し、これまで開発が困難、不可能であった難溶性薬物の注射、点眼、吸入製剤等への応用に取り組んでいます。APNTを用いた開発品は、APP13002(適応：感染性眼疾患)、APP13007(適応：炎症性眼疾患)があり、現在、前臨床試験を実施しています。

子会社であるJITSUBO株式会社は、ペプチド合成を高効率かつ低コストで実現可能とする革新的な液相合成法技術であるMolecular Hiving™、ペプチドの立体構造を改変することにより有効性や安全性の向上、更に薬剤の安定性の改善にも役立つとされるペプチド修飾の新たな要素技術であるPeptune™を有しています。新規ペプチド液相合成法を用いた開発品は、JIT-1007(適応：希少性疾患)及び後発品であるJIT-2001(適応：循環器系疾患)の前臨床試験を実施しています。

(海外医薬事業)

《主要製品》

■ウルティプロ®ブリーズヘラー® (適応：慢性閉塞性肺疾患(COPD)、ノバルティス社により上市済み(欧州・日本)、以下「ウルティプロ」)

ウルティプロ(一般名：グリコピロニウム臭化物/インダカテロールマレイン酸塩、製品名：Ultibro® Breezhaler®(欧州)、ウルティプロ®吸入用カプセル(日本))は、1日1回吸入のLAMA(グリコピロニウム臭化物)とLABA(インダカテロールマレイン酸塩)の固定用量の配合剤であり、慢性閉塞性肺疾患(以下「COPD」)の諸症状を緩和するための気管支拡張剤です。ウルティプロは、欧州、日本、カナダ、メキシコ、オーストラリア等を含む90カ国以上において1日1回吸入のLAMA/LABA配合剤として初めて承認され、現在は、日本、ドイツ、カナダを含40カ国以上において販売されております。

また、米国においては、2015年10月に慢性気管支炎や肺気腫を含むCOPDに基づく気道閉塞性障害の新規1日2回吸入の長期維持療法として、Utibron™ Neohaler®の製品名で承認されました。

■シーブリ®ブリーズヘラー® (適応：慢性閉塞性肺疾患(COPD)、ノバルティス社により上市済み(欧州・日本、以下「シーブリ」)

シーブリ(一般名：グリコピロニウム臭化物、製品名：Seebri®(Breezhaler®欧州)、シーブリ®吸入用カプセル50µg(日本))は、1日1回吸入の長時間作用性抗コリン薬(以下「LAMA」)であり、COPDの諸症状を緩和するための気管支拡張剤です。当社とベクチュラ・グループは2005年4月にノバルティス社に全世界の独占的開発・販売権を導出しております。現在は、欧州、日本、カナダ、南米、アジア、オーストラリア、中東を含む90カ国以上において承認されております。

また、米国においては、2015年10月に慢性気管支炎や肺気腫を含むCOPDに基づく気道閉塞性障害の新規1日2回吸入の長期維持療法として、Seebri™ Neohaler®の製品名で承認されました。

当社はノバルティス社との契約に基づき、両剤の全世界の売上に対する一定率のロイヤリティを受領できることになっております。

※「ウルティプロ®」、「シーブリ®」、「ブリーズヘラー®」及び「Neohaler®」はノバルティス社の登録商標です。「Utibron™」及び「Seebri™」はノバルティス社の商標です。

《基盤技術による研究開発》

■StaR®技術を活用したGPCR構造ベース創薬

子会社であるHeptares Therapeutics Ltd.は、熱力学的に安定化したGPCRを作成させることができる世界初となるStaR®技術を活用したGPCR構造ベース創薬技術を有しています。GPCRは、細胞膜に埋まっているタンパク質であり、細胞外から細胞内へ生化学的情報伝達の役割を担い、味覚、視覚、嗅覚、行動、自律神経系機能、免疫機能等、様々な生理学的及び生物学的反応に関与しているため、GPCRは、薬物治療上、最も重要な標的分子であるとされています。しかし、細胞膜から抽出されると分子構造が不安定となるためその構造が明らかとなっていないものが多く、立体構造に基づく創薬研究は難しいとされてきました。StaR®技術の応用によりGPCRの構造解析が進み、これまで難しいとされてきた分子構造設計に基づいた強力かつ選択性の高い候補物質の創製が可能となります。Heptares社は神経疾患領域、がん免疫から代謝疾患、希少疾患領域まで充実したパイプラインを有しており、研究開発において複数のパイプラインの開発を着実に推進しています。同時に、基盤技術を用いた提携、自社パイプラインの導出に積極的に取り組んでいます。

当連結会計年度の主な進捗は、次のとおりです。

・Allergan社とのアルツハイマー病等の中枢神経系疾患に対する新規治療薬の開発・販売提携

Heptares社は、Allergan社と、2016年4月7日に、アルツハイマー病等の神経系疾患を適応とする新規ムスカリン受容体サブタイプ選択的作動薬化合物群の開発・販売に係る提携契約を締結しました。本提携により、125百万米ドルの契約一時金を受領、さらに最初の3つの化合物の開発の進捗や上市に応じて最大約665百万米ドルの開発マイルストーン収入、販売目標の達成に応じて最大約2,500百万米ドルの販売マイルストーン収入を受領することが可能になります。また、Heptares社はすべての化合物について、売上高に応じた最大二桁の段階的ロイヤリティ収入を受領できることとなります。Allergan社は複数の候補薬の開発を進めることを目的とした両社協同の開発プログラムにおいて、第Ⅱ相臨床試験まで500百万米ドルの研究開発支援金を提供します。また、Allergan社は化合物群の後期第Ⅱ相臨床試験開始とそれに続く製品の製造販売の責任を持つこととなります。

・AstraZeneca社との複数のがん種を標的とするがん免疫療法開発における新薬候補の第Ⅰ相臨床試験開始

Heptares社は、2015年8月にAstraZeneca社（英国）とがん免疫療法開発に関する提携契約を締結いたしました。AstraZeneca社はがん免疫療法の低分子化合物であるアデノシンA_{2A}受容体拮抗薬HTL1071及びその他のアデノシンA_{2A}受容体阻害剤の独占の開発、製造販売権を取得し、複数のがん種を標的とした既存開発ポートフォリオのがん免疫療法の併用を含む、HTL1071及びその他の化合物の研究開発を実施しています。Heptares社は早期達成が見込まれる前臨床研究結果及び臨床試験開始に応じて相当額のマイルストーンを受領いたします。このたび、がん免疫療法の候補薬であるHTL1071（AZD4635）が、第Ⅰ相臨床試験において最初の被験者に投与されたことを契機に、Heptares社は提携先であるAstraZeneca社より10百万米ドルを受領いたしました。

今後さらに、予め定められた開発及び販売の目標の達成に応じて、総額500百万米ドルを超える開発及び販売マイルストーンや、販売高に応じた最大二桁比率の段階的ロイヤリティを受領することが可能となっています。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ651百万円増加し、48,005百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ5,612百万円増加し、15,680百万円となりました。なお流動資産の総資産に占める比率は35.4%、現金及び現金同等物の流動資産に占める比率は92.2%となりました。

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ2,842百万円減少し、21,242百万円となりました。主な減少要因は、企業結合による条件付対価の決済が4,105百万円あったことと、有利子負債1,000百万円の返済が生じたことによるものです。一方で、増加要因として未払法人所得税が2,967百万円増加しております。

当第2四半期連結会計期間末における資本は、前連結会計年度末に比べ3,493百万円増加し、26,763百万円となりました。主な増加要因は、四半期利益の増加に伴い利益剰余金が増加したことによるものです。また、親会社所有者帰属持分比率は前連結会計年度末に比べ6.9ポイント増加し、55.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2016年5月13日の「平成28年3月期 決算短信〔IFRS〕（連結）」で公表した予想から変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

当社グループの要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は前年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

なお、当第2四半期の法人所得税費用は、見積年次実効税率を基に算定しております。

3. 要約四半期連結財務諸表

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間 (2016年9月30日)	前連結会計年度 (2016年3月31日)
資産		
非流動資産		
有形固定資産	318	270
のれん	13,574	15,426
無形資産	15,703	19,313
繰延税金資産	1,342	1,658
その他の非流動資産	50	49
非流動資産合計	<u>30,989</u>	<u>36,718</u>
流動資産		
営業債権及びその他の債権	479	97
その他の流動資産	856	469
現金及び現金同等物	15,680	10,068
流動資産合計	<u>17,016</u>	<u>10,635</u>
資産合計	<u>48,005</u>	<u>47,354</u>
負債及び資本		
負債		
非流動負債		
繰延収益	—	21
繰延税金負債	<u>2,922</u>	3,688
企業結合による条件付対価	5,003	9,994
有利子負債	5,880	6,847
その他の非流動負債	224	74
非流動負債合計	<u>14,031</u>	<u>20,626</u>
流動負債		
営業債務及びその他の債務	2,092	1,335
繰延収益	30	20
未払法人所得税	<u>3,037</u>	70
有利子負債	1,990	1,990
その他の流動負債	60	42
流動負債合計	<u>7,211</u>	<u>3,458</u>
負債合計	<u>21,242</u>	<u>24,084</u>
資本		
資本金	25,991	25,955
資本剰余金	14,475	14,263
利益剰余金	<u>△4,033</u>	△14,184
その他の資本の構成要素	△9,677	△2,891
親会社の所有者に帰属する持分	<u>26,756</u>	<u>23,142</u>
非支配持分	6	126
資本合計	<u>26,763</u>	<u>23,269</u>
負債及び資本合計	<u>48,005</u>	<u>47,354</u>

(2) 要約四半期連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月 1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月 1日 至 2015年9月30日) (修正再表示)
売上収益	15,839	2,540
売上原価	—	—
売上総利益	15,839	2,540
研究開発費	1,657	1,896
販売費及び一般管理費	2,069	1,440
その他の収益	110	53
その他の費用	0	11
営業利益又は損失(△)	12,223	△753
金融収益	1,185	1
金融費用	162	666
税引前四半期利益又は損失(△)	13,245	△1,418
法人所得税費用	3,218	△243
四半期利益又は損失(△)	10,027	△1,175
その他の包括利益		
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の為替換算差額	△6,785	617
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	△6,785	617
その他の包括利益合計	△6,785	617
四半期包括利益合計	3,241	△557
四半期利益又は損失(△)の帰属：		
親会社の所有者	10,151	△1,128
非支配持分	△123	△47
四半期利益又は損失(△)	10,027	△1,175
四半期包括利益の帰属：		
親会社の所有者	3,365	△510
非支配持分	△123	△47
四半期包括利益	3,241	△557
1株当たり四半期利益(円)		
基本的1株当たり四半期利益又は損失(△)	601.35	△80.71
希薄化後1株当たり四半期利益又は損失(△)	598.40	△80.71

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

当第2四半期連結累計期間(自2016年4月1日 至2016年9月30日)

(単位:百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の 資本の構成要素 在外営業活動体の 為替換算差額	親会社の所有者に 帰属する持分合計
2016年4月1日時点の残高	25,955	14,263	△14,184	△2,891	23,142
四半期利益又は損失(△) 為替換算差額	—	—	<u>10,151</u>	—	<u>10,151</u>
四半期包括利益合計	—	—	<u>10,151</u>	△6,785	<u>3,365</u>
新株の発行	35	5	—	—	40
株式報酬費用	—	205	—	—	205
支配継続子会社に対する持分 変動	—	1	—	—	1
所有者との取引額合計	35	212	—	—	248
2016年9月30日時点の残高	<u>25,991</u>	<u>14,475</u>	<u>△4,033</u>	<u>△9,677</u>	<u>26,756</u>
	非支配持分	資本合計			
2016年4月1日時点の残高	126	23,269			
四半期利益又は損失(△) 為替換算差額	△123	<u>10,027</u>			
四半期包括利益合計	△123	<u>3,241</u>			
新株の発行	—	40			
株式報酬費用	—	205			
支配継続子会社に対する持分 変動	4	6			
所有者との取引額合計	4	252			
2016年9月30日時点の残高	<u>6</u>	<u>26,763</u>			

前第2四半期連結累計期間(自2015年4月1日 至2015年9月30日)

(単位:百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金 (修正再表示)	その他の 資本の構成要素 在外営業活動体の 為替換算差額 (修正再表示)	親会社の所有者に 帰属する持分合計 (修正再表示)
2015年4月1日時点の残高	19,478	7,774	△12,614	△38	14,600
四半期利益又は損失(△) 為替換算差額	—	—	△1,128	—	△1,128
四半期包括利益合計	—	—	△1,128	617	617
新株の発行	4,416	4,350	—	—	8,767
配当	—	—	△137	—	△137
所有者との取引額合計	4,416	4,350	△137	—	8,629
2015年9月30日時点の残高	23,894	12,125	△13,880	579	22,719

	非支配持分	資本合計 (修正再表示)
2015年4月1日時点の残高	241	14,842
四半期利益又は損失(△) 為替換算差額	△47	△1,175
四半期包括利益合計	—	617
新株の発行	△47	△557
配当	—	8,767
所有者との取引額合計	—	△137
2015年9月30日時点の残高	—	8,629
	194	22,914

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日) (修正再表示)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益又は損失(△)	13,245	△1,418
減価償却費及び償却費	456	479
株式報酬費用	205	—
補助金収入	△109	△48
為替差損益	△1,103	△95
支払利息	102	319
条件付対価に係る公正価値変動額	59	288
未収入金の増減額(△は増加)	△455	△269
営業債権の増減額(△は増加)	△442	2,552
営業債務の増減額(△は減少)	462	△300
その他	96	391
小計	12,518	1,899
利息及び配当金の受取額	8	1
利息の支払額	△69	△230
補助金の受取額	97	—
法人所得税の還付額	3	2
法人所得税の支払額	△2	△21
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,557	1,650
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△110	△70
資産計上された開発費に関連する支出	△112	△81
その他	△6	18
投資活動によるキャッシュ・フロー	△229	△134
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期有利子負債の返済による支出	—	△20,000
長期有利子負債の返済による支出	△1,000	—
長期有利子負債の借入による収入	—	9,800
条件付対価の決済による支出	△4,105	—
株式の発行による収入	40	8,767
配当金の支払による支出	—	△123
その他	6	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,058	△1,555
現金及び現金同等物の為替変動による影響	△1,657	△12
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	5,612	△51
現金及び現金同等物の期首残高	10,068	5,573
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,680	5,522

(5) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

① 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。当社グループは持株会社体制をとっており、持株会社がグループ全体の経営管理機能を担っております。当社グループは、現在の利益管理単位である会社の所在地を基準にして、国内医薬事業と海外医薬事業の2つを報告セグメントとしております。両セグメントともに医薬品を開発し、ライセンスアウトすることを主たる事業としております。

上記のように決定された報告セグメントにおける主要セグメントの主たるパイプラインは以下のとおりです。

報告セグメント	会社名	主たるパイプライン
国内医薬事業	・株式会社そーせい ・株式会社アクティブスファーマ ・JITSUBO株式会社	・S0-1105 ・APP13002 ・APP13007 ・JIT-2001 ・JIT-1007 ・JIT-2005
海外医薬事業	・Sosei R&D Ltd. ・Heptares Therapeutics Ltd.	・シーブリ® ・ウルティプロ® ・ムスカリンM ₁ ・M ₄ ・M ₁ /M ₄ デュアル受容体作動薬 ・CGRP受容体拮抗薬 ・アデノシンA _{2A} 受容体拮抗薬

② 報告セグメントの収益、損益

当社グループの報告セグメント情報は以下のとおりです。各報告セグメントの会計方針は、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

当第2四半期連結累計期間（自 2016年4月1日 至 2016年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額	連結
	国内医薬	海外医薬	計		
外部顧客からの売上収益	60	15,778	15,839	—	15,839
セグメント間の売上収益	—	—	—	—	—
計	60	15,778	15,839	—	15,839
営業利益（又は損失（△））	△405	12,736	12,330	△107	12,223
金融収益・費用（純額）					1,022
税引前四半期利益（又は損失（△））					13,245

調整額は報告セグメントに帰属しない親会社（持株会社）に係るものです。

前第2四半期連結累計期間（自 2015年4月1日 至 2015年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額	連結
	国内医薬	海外医薬	計		
外部顧客からの売上収益	86	2,454	2,540	—	2,540
セグメント間の売上収益	0	—	0	△0	—
計	87	2,454	2,541	△0	2,540
営業利益（又は損失（△））	△239	△529	△768	15	△753
金融収益・費用（純額）					△665
税引前四半期利益（又は損失（△））					△1,418

調整額は報告セグメントに帰属しない親会社（持株会社）に係るものです。

2015年2月において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、2016年3月期第2四半期の要約四半期連結財務諸表を遡及修正しております。